

高齢者の聞こえの自己評価と補聴相談対象候補者の検討

筑波技術短期大学教育方法開発センター（聴覚障害系）¹⁾ ライフデザイン研究所²⁾

大沼直紀¹⁾ 水野映子²⁾

要旨：高齢者の聞こえの実態を把握するとともに、特に、「聞こえの自己評価」により補聴器の適応を判定するための基礎資料を得ることを目的として、60歳～74歳の男女600名を対象にアンケート調査を実施した。調査の内容は、1)補聴器の使用の有無、2)人と対面した聴取場面での音声の聞こえの自己評価、3)テレビを視聴する場面での聞こえの自己評価、4)日常生活音環境場面での聞こえの自己評価である。その結果、60歳以上の者の3.1%が現在補聴器を利用し、性別では、男性が4.1%、女性が2.1%であった。年代別では、60代前半では1.0%と低いのに比べ、60代後半で4.0%に、70代前半で4.4%と、60代後半から70代前半にかけて補聴器の利用率が高くなる傾向が見られた。また、聞こえの自己評価の結果から、60歳以上の者のうち全体の7.7%が聞こえに問題を持ち、70代前半では、補聴器の装用あるいは補聴相談の対象とすべき候補者と思われながら、まだ適切な聴覚補償の支援を受けていない高齢者が10%以上存在すると推定された。

キーワード：高齢者、難聴、聞こえの自己評価、補聴器、聴覚補償

1. はじめに

高齢になるにつれ聴力の低下がみられることは一般によく知られているが、テレビの音量が大きすぎて周囲が迷惑を蒙る、家族との音声コミュニケーションに困難をきたすなどの状況が顕著になるまで、適切な情報補償や対応がなされないままになることも多い。聞こえの障害は客観的にも主観的にも認識されにくいので、聴覚補償の対策に遅れを生じやすい。聞こえの問題を自己認識させる機会をどのように設けるかが課題である。今回、高齢者の聞こえの実態を把握するとともに、特に、「聞こえの自己評価」により補聴器の適応を判定するための基礎資料を得ることを目的として、60歳以上の人を対象にアンケート調査を実施した。

2. 方法

2.1 アンケート調査の内容

以下の4つの問いに答えるアンケート調査用紙を作成した(資料：アンケート調査表)。(1)

- 1) 補聴器の使用の有無(アンケート：問1)
- 2) 音声(主として人と対面した聴取場面での)聞こえの自己評価(アンケート：問2)
- 3) テレビ(主としてテレビを視聴する場面での)聞こえの自己評価(アンケート：問3)
- 4) 日常生活(主として家の内外の日常生活音環境場面での)聞こえの自己評価(アンケート：問4)

2.2 アンケート調査の方法

- 1) 調査対象者：同居者がいる60～74歳の男女

(全国より無作為抽出)

- 2) 調査時期：1999年12月
- 3) 調査手法：郵送配布・郵送回収
- 4) サンプル数：600名
- 5) 有効回収数(率)：583名(97.2%)

2.3 回答者の属性

回答者の性・年齢構成は、表1の通りである。

表1：回答者の属性

(n=583人)

		%	人	
性・年代	男 性	60～64歳	16.3	96
		65～69歳	17.3	101
		70～74歳	16.3	96
		計	49.9	293
	女 性	60～64歳	17.3	101
		65～69歳	17.0	99
		70～74歳	14.9	87
	計	49.2	287	
	無回答	0.9	5	
同居者 (複数回答)	配偶者(妻または夫)	86.9	518	
	親(配偶者の親を含む)	4.6	27	
	子ども(子どもの配偶者を含む)	44.4	259	
	孫	10.5	61	
	兄弟姉妹	1.2	7	
	その他	0.2	1	
	無回答	0.7	4	
現在の職業	正職の社員・従業員	4.1	24	
	非営利・福祉・ボランティア	35.1	204	
	自営業・自山前・家族従業者	9.6	56	
	その他	2.9	17	
	収入のある仕事はしていない(専業主婦を含む)	46.0	265	
	無回答	1.2	7	
補聴器の 利用状況	使っている	3.1	18	
	使っていない	94.3	550	
	無回答	2.6	15	

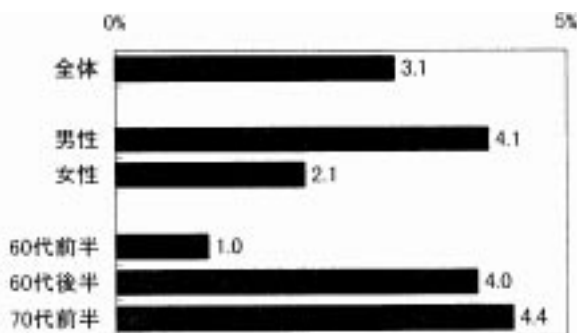
3. 結果と考察

3.1 補聴器の利用率

補聴器の利用の有無をたずねたアンケート調査(問1)の結果を図1に示した。

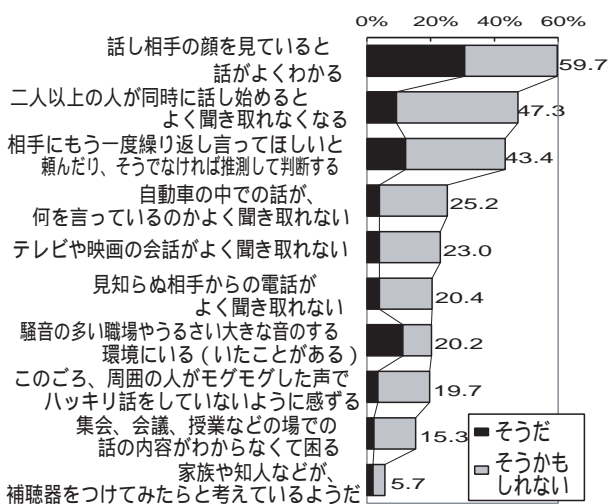
全体の3.1%(583人中の18人)が補聴器を利用していた。男性と女性の補聴器利用率を比較すると、全体では男性が4.1%であり、女性の利用率2.1%を上回っていた。年代別にみると、もちろん高齢になるにつれて利用率は高くなるが、60代前半では1.0%と低いのに比べ、60代後半で4.0%に、70代前半で4.4%と、60代後半から70代前半にかけて補聴器の利用率が高くなる傾向が見られた。

図1 補聴器の利用率(全体、性別、年代別)



3.2 聞こえの自己評価(音声コミュニケーション場面)の結果と考察

アンケート調査(問2)では、大沼(1997)が作成し



(N=583)

図2 音声聞こえの自己評価の結果

た「聞こえの自己評価表」[1][2]を用いて、主として家族などとの音声コミュニケーションの状況をたずねた(表2)。聞こえに関する10項目のそれぞれについて「そうだ」「そうかもしれない」「そんなことはない」のいずれかを選ばせ、それを得点化することによって、聞こえの補償の必要性を自分で判断する目安とするものである。

図2には、「そうだ」および「そうかもしれない」と答えた者(補聴器装用者を除いた)の割合を示した。合計割合が最も高いのは、「話し相手の顔を見ていると話がよくわかる」(59.7%)であり、次いで「二人以上の方が同時に話し始めるとよく聞き取れなくなる」(47.3%)、「相手にもう一度繰り返し言ってほしいと頼んだり、そうでなければ推測して判断する」(43.4%)であった。

次に、「そうだ」「そうかもしれない」「そんなことはない」のそれぞれ5点、3点、1点を与え、10項目の合計得点を算出した。表2にはその得点の分布を示した。

表2 聞こえの自己評価の得点分布(全体、性別、年齢層別)

(%)

	全体	性別		年齢層別			
		男性	女性	60代前半	60代後半	70代前半	
		N=583	n=291	n=287	n=196	n=200	n=182
得点 (うち補聴器装用者)	20点未満	59.0	60.5	57.5	65.8	60.0	50.5
	20~29点	24.9	20.6	29.3	19.9	25.5	29.7
	30~39点	7.2	9.6	4.5	5.1	6.0	10.4
	40点以上	0.5	0.0	1.0	0.5	0.0	1.1
	無回答	8.4	9.3	7.7	8.7	8.5	8.2
平均得点	(3.1)	(4.1)	(2.1)	(1.0)	(4.0)	(4.4)	
平均得点	17.7	17.8	17.5	16.5	17.4	19.2	

結果をみると、全体では20点未満の者が約6割(59.0%)、20点台の者は約4人に1人(24.9%)を占めていた。平均得点(無回答を除く)は17.7点であった。

性別にみると、20点未満の者の割合は男性の方がやや高く、20点以上の者の割合は女性の方がやや高かった。平均得点は男性17.8点、女性17.5点であり、男性の方がわずかに高かった。

年齢層別にみると、年齢の高い者ほど20点未満の者の割合は低く、20点以上の者の割合は高かった。平均得点も年齢の高い者ほど高かった。

これらの結果から、得点30点以上の者に対して聴覚

情報補償の支援が必要であると仮定するならば、わずか3.1%のものが現在補聴器を利用しているのに対し、60歳以上の高齢者のうち、全体の7.7%の者が聞こえに問題を持ち補聴器の使用または装用を試みることを検討すべき候補者であると推定される。その必要性の傾向は女性より男性に高いと思われる。また、年齢層でみると60代前半ではから後半にかけては、得点30点以上が5~6%であるが、70代前半には補聴器の試用あるいは装用の候補者と思われながらまだ適切な聴覚補償の支援を受けていない者が10%以上は存在すると推定される。

3.3 聞こえ自己評価（テレビ視聴場面）の結果と考察

アンケート調査（問3）では、大沼（1997）が作成した「テレビ聞こえ不満度の自己評価表」[1][2]を用いて、主としてテレビ視聴場面での聞こえの状況をたずねた。テレビ視聴場面での聞こえに関する10項目のそれぞれについて「そうだ」「そうかもしれない」「そんなことはない」のいずれかを選ばせ、それを得点化することによって、聞こえの補償の必要性を自分で判断する目安とするものである。

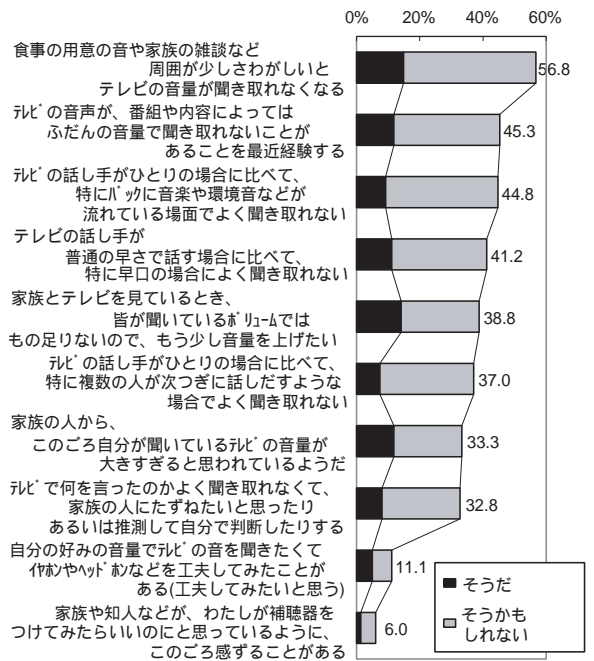


図3 テレビ聞こえの自己評価の結果

図3には、「そうだ」および「そうかもしれない」と答えた者の割合を示す。合計割合が最も高いのは「食事の用意の音や家族の雑談など周囲が少しさわがしいとテレビの音量が聞き取れなくなる」(56.8%)であり、次いで「テレビの音声、番組や内容によってはふだんの音量で聞き取れないことがあることを最近経験する」(45.3%)、「テレビの話し手がひとりの場合に比べて、特にバックに音楽や環境音などが流れている場面でよく聞き取れない」(44.8%)、「テレビの話し手が普通の早さで話す場合に比べて、特に早口の場合によく聞き取れない」(41.2%)であった。

次に、「そうだ」「そうかもしれない」「そんなことはない」のそれぞれ5点、3点、1点を与え、合計得点を算出した。表3にはその得点の分布を示す。

表3 テレビ聞こえの自己評価の得点分布 (全体、性別、年齢層別)

(%)

	全体	性別		年齢層別			
		男性	女性	60代前半	60代後半	70代前半	
	N=583	n=291	n=287	n=196	n=200	n=182	
得点	20点未満	55.9	54.6	57.5	65.3	58.0	44.0
	20~29点	21.4	22.3	20.6	19.9	19.5	25.3
	30~39点	11.7	11.7	11.1	8.7	9.5	16.5
	40点以上	3.4	3.1	3.8	1.5	4.0	4.9
	無回答	7.5	8.2	7.0	4.6	9.0	9.3
(うち補聴器装用者)		(3.1)	(4.1)	(2.1)	(1.0)	(4.0)	(4.4)
平均得点		19.4	19.5	19.2	17.5	19.2	21.5

全体では、20点未満が過半数(55.9%)、20点台が2割強(21.4%)、30点台が1割強(11.7%)を占めていた。平均得点(無回答を除く)は、19.4点であった。

性別にみると、20点未満の者の割合は女性の方がやや高く、20点以上の者の割合は男性の方が高かった。平均得点は男性19.5点、女性19.2点であり、男性の方がわずかに高かった。

年齢層別にみると、年齢の高い者ほど20点以上の者の割合は高く、平均得点も高かった。

これらの結果から、得点30点以上の者に対して聴覚

情報補償の支援が必要であると仮定するならば、わずか3.1%のものが現在補聴器を利用しているのに対し、60歳以上の高齢者のうち、全体の15.1%の者がテレビ音声の聴取に問題を持ち何らかの情報補償を必要とする候

補者であると推定される。また、得点30点以上の者の割合を年齢層で見ると、60代前半ですでに10%を超え始め、70代前半には20%以上の者がテレビ音声に対する聴覚補償の支援を受けていないものと推定される。

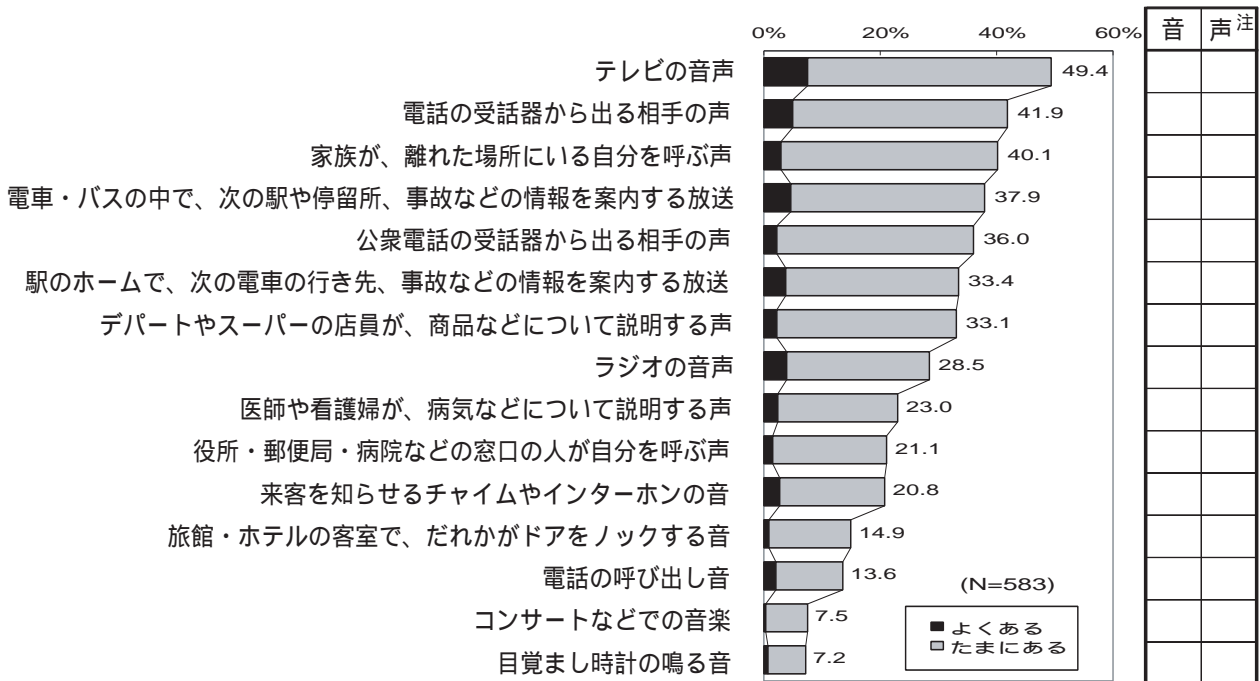


図4 日常生活で聞こえにくいと感じる程度と音・声の種類
注：「声」の印は、機械などを通して間接的に聞く声であることを示している

3.4 聞こえの自己評価（日常生活音環境場面での） 結果と考察

調査アンケート（問4）では、家の内外の日常生活音環境場面から15種類の音と声を選び、それぞれについて聞こえにくいと感じることが「よくある」「たまにある」「まったくない」「聞く機会がない」のいずれに当てはまるかをたずねた。図4には、「よくある」「たまにある」と答えた者の割合と、それぞれの音と声の種類を示した。

聞こえにくいと感じることがある（「よくある」と「たまにある」の合計、以下同じ）割合が高い上位5項目は、「テレビの音声」（49.4%）、「電話の受話器から出る相手の声」（41.9%）、「家族が、離れた場所にいる自分を呼ぶ声」（40.1%）、「家族が、離れた場所にいる自分を呼ぶ声」（37.9%）、「電車・バスの中で、次の駅や停留所、事故などの情報を案内する放送」（36.0%）であった。

音と声の種類別にみると、聞こえにくいと感じることがある割合が高いのは、音よりも声であり、また声の場合、直接聞く声よりも間接的に聞く声、あるいは遠くから聞く声であった。

聞こえにくいと感じることがある割合を性別および年齢層別に分析したのが図5である。

性別にみると、一部の音と声（「家族が離れた場所にいる自分を呼ぶ声」「来客を知らせるチャイムやインターホンの音」「旅館・ホテルの客室で、だれかがドアをノックする音」「電話の呼び出し音」）を除くと、男性の方が聞こえにくいと感じる程度が高かった。

また、年齢層別にみると、ほとんどの音と声において、年齢の高い者ほど聞こえにくいと感じる程度が高かった。

次に、日常生活音環境の中で聞こえにくいと感じる程度を、前に述べた音声（主として人と対面した聴取場面での）聞こえの自己評価（アンケート調査：問2）の得

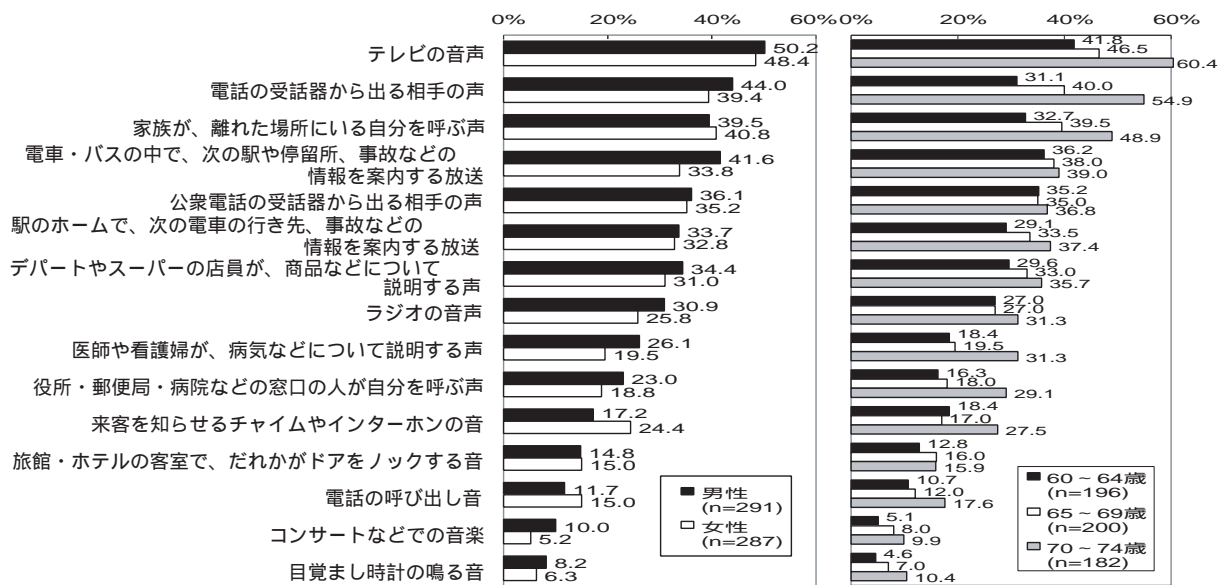


図5 日常生活で音・声を聞こえにくいと感じる程度（性別・年齢層別）
注：「よくある」または「たまにある」と回答した者の合計割合を示している

点との関係で分析してみたのが図6である。

音声聞こえの自己評価が20点以上の者の方が、全ての音声において聞こえにくいと感じる程度が高く、20点未満の者はいずれの音と声に関しても聞こえにくいと感じる程度が3割を下回っている。

同じように、前に述べたテレビ聞こえの自己評価（アンケート調査：問3）の得点が、20点未満の者と20点以上の者とに分けて、問4のテレビの音声を聞こえにくいと感じる者との関係をみたのが図7である。テレビの音声を聞こえにくいと感じる者は、テレビ聞こえの自己評価の得点が20点未満の者では21.8%であるのに対し、20点以上の者は88.7%を占めて効率であった。

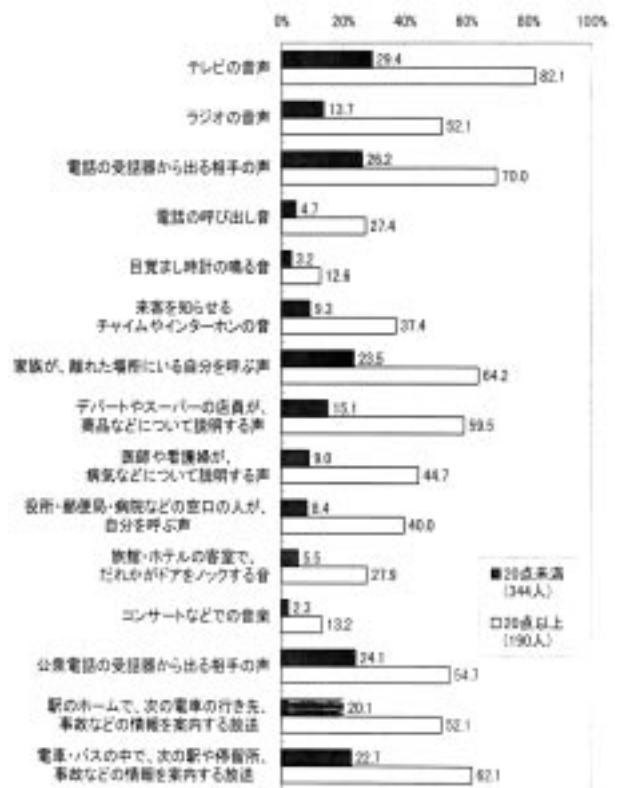


図6 日常生活で音・声を聞こえにくいと感じる程度（音声聞こえの自己評価の得点別）



図7.「テレビの音」が聞きにくいと感じる程度
(音声聞こえの自己評価の得点別)

4. まとめ

- 1) 高齢者の聞こえの実態を把握するとともに、特に、「聞こえの自己評価」により補聴器適応の候補者を判定するための基礎資料を得ることを目的として、60歳～74歳の男女600名を対象にアンケート調査を実施した。
- 2) 調査の内容は、(1)補聴器の使用の有無、(2)人と対面した聴取場面での音声の聞こえの自己評価、(3)テレビを視聴する場面での聞こえの自己評価、(4)日常生活音環境場面での聞こえの自己評価である。
- 3) 調査の結果、60歳以上の者の3.1%が現在補聴器を利用し、性別では、男性が4.1%、女性が2.1%であった。年代別では、60代前半では1.0%と低いのに比べ、60代後半で4.0%に、70代前半で4.4%と、60代後半から70代前半にかけて補聴器の利用率が高くなる傾向が見られた。
- 4) 聞こえの自己評価の結果から、60歳以上の者のうち全体の7.7%が聞こえに問題を持ち、70代前半の高齢者では、補聴器の装用あるいは補聴相談の対象とすべき候補者と思われながら、まだ適切な聴覚補償の支援を受けていない者が10%以上存在すると推定された。
- 5) テレビ聞こえの自己評価の結果から、60歳以上の者うち、全体の15.1%がテレビ音声の聴取に問題を持ち何らかの情報補償を必要とする候補者であると推定され、70代前半の高齢者の20%以上の者がテレビ音声に対する聴覚補償の支援を受けていないものと推定された。

参考文献

- 1) 水野映子：高齢者の聴覚に関する問題点への対応策(上)『LDIREPORT』,ライフデザイン研究所,2000.
- 2) 大沼直紀：教師と親のための補聴器活用ガイド,コレール社,1997.
- 3) 大沼直紀：あなたの耳は大丈夫?,PHP研究所,1997.

資料：アンケート表

問1 あなたは、補聴器を使っていますか。

1. 使っている	2. 使っていない
----------	-----------

問2 次のことからは、1～3のどれに当てはまりますか。
 (ア～コのそれぞれについて1つずつ○印)

	まったく ない	さうかも しれない	そんな ことはない
(ア) 二人以上の方が同時に話し始めるとよく聞き取れなくなる	1	2	3
(イ) 自動車の音の中の音が、何を言っているのかよく聞き取れない	1	2	3
(ウ) このごろ、周囲の人がモグモグした声でハッキリ話をしていないように感じる	1	2	3
(エ) 家族や知人などが、補聴器をつけてみたらと考えているようだ	1	2	3
(オ) 騒音の多い職場やうるさい大きな音のする環境にいる(いたことがある)	1	2	3
(カ) 相手にもう一度繰り返して言ってほしいと頼んだり、そうでなければ推測して判断する	1	2	3
(キ) 話し相手の顔を見ていると話がよくわかる	1	2	3
(ク) テレビや映画の会話がよく聞き取れない	1	2	3
(ケ) 見知らぬ相手からの電話がよく聞き取れない	1	2	3
(コ) 宴会、会議、授業などの場での話の内容がわからなくて困る	1	2	3

問3 次のことからは、1～3のどれに当てはまりますか。
 (ア～コのそれぞれについて1つずつ○印)

	まったく ない	さうかも しれない	そんな ことはない
(ア) テレビの音声は、番組や内容によってはふだんの音量で聞き取れないことがあることを最近経験する	1	2	3
(イ) 家族とテレビを見ているとき、音が聞いてあるボリュームではもの足りない、もう少し音量を上げたい	1	2	3
(ウ) 食事の用意の音や家族の雑談など周囲が少しさわがしいとテレビの音量が聞き取れなくなる	1	2	3
(エ) テレビの話し手が普通話の早さで話す場合に比べて、特に早口の場合によく聞き取れない	1	2	3
(オ) テレビの話し手がひとりの場合に比べて、特に複数の人が次々に話したような場合によく聞き取れない	1	2	3
(カ) テレビの話し手がひとりの場合に比べて、特にバックに音楽や環境音などが流れている環境でよく聞き取れない	1	2	3
(キ) 家族の人から、このごろ自分が聞いているテレビの音量が大きすぎると思われているようだ	1	2	3
(ク) テレビで何を言ったのかよく聞き取れなくて、家族の人にたずねたいと思ったりあるいは推測して自分で判断したりする	1	2	3
(ケ) 自分の好みの音量でテレビの音を聞きたくてイヤホンやヘッドホンなどを工夫してみたことがある(工夫してみたいと思う)	1	2	3
(コ) 家族や知人などが、わたしが補聴器をつけてみたらいいのにと思っているように、このごろ感ずることがある	1	2	3

問4 あなたは、次における音声を聞こえにくいと感じることがどの程度ありますか。
 (ア～ソのそれぞれについて1つずつ○印)
 ※該当する音声を聞くことのない人は、4(聞く機会がない)に○印をつけて下さい。

	聞こえにくいと感じることが			
	よくある	たまにある	まったくない	聞く機会がない
家の音				
(ア) テレビの音声	1	2	3	4
(イ) ラジオの音声	1	2	3	4
(ウ) 電話の受話器から出る相手の声	1	2	3	4
(エ) 電話の呼び出し音	1	2	3	4
(オ) 目覚まし時計の鳴る音	1	2	3	4
(カ) 来客を知らせるチャイムやインターホンの音	1	2	3	4
(キ) 家族が、離れた場所にいる自分を呼ぶ声	1	2	3	4
家の外				
(ク) デパートやスーパーの店員が、商品などについて説明する声	1	2	3	4
(ケ) 医師や看護婦が、病室などについて説明する声	1	2	3	4
(コ) 役所・郵便局・病院などの窓口の人が、自分を呼ぶ声	1	2	3	4
音				
(サ) 旅館・ホテルの客室で、だれかがドアをノックする音	1	2	3	4
(シ) コンサートなどでの音楽	1	2	3	4
(ス) 公共電話の受話器から出る相手の声	1	2	3	4
(セ) 駅のホームで、次の電車の行き先、事故などの情報を案内する放送	1	2	3	4
(ソ) 電車・バスの中で、次の駅や停留所、事故などの情報を案内する放送	1	2	3	4

Needs Assessment for Audiological Support According to the Self-Evaluation of Hearing Problems in Elderly People

Naoki ONUMA¹⁾, Eiko MIZUNO²⁾

¹⁾Research Center on Educational Media, Division for the Hearing Impaired, Tsukuba College of Technology

²⁾Life Design Institute

Abstract: As the population continues to age, it is important that we address the problems of elderly people with hearing impairments. We sent out questionnaires to 600 men and women between the ages of 60-74, and asked them about their hearing abilities and the means to compensate for hearing loss. The results of the research yielded several suggestions about the hearing problems of elderly people and the possibilities to compensate them for hearing loss. As a result, 3.1% of over 60 year-old people now wear hearing aid, with distinction of sex, 4.1% of men and 2.1% of women. With generation distinction, we prove that rate of wearing hearing aid shows a tendency to go up from latter half 60's to early 70's. From the result of "self-check list to hard of hearing", 7.7% of over 60-year old people have problems of hearing, and over 10% early 70's old people have not yet received appropriate auditory compensation support in spite of candidates who have to wear or consult hearing aid.

Key Words: Elderly people, Hearing impairment, Self-evaluation of hearing problems, Hearing-aid, Auditory compensation